

長野地方気象台より情報提供

顕著な大雨に関する気象情報の新たな運用等について

- ・顕著な大雨に関する気象情報の新たな運用
- ・その他（あなたの街の気象情報の見方等）

長野地方気象台

令和5年5月25日開始

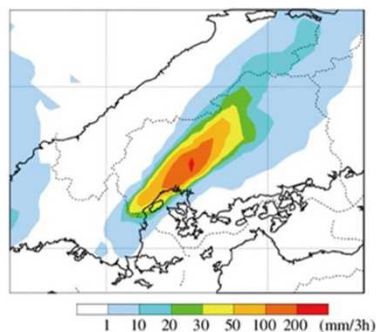
顕著な大雨に関する気象情報の新たな運用

線状降水帯がもたらす顕著な大雨への注意喚起について

線状降水帯とは

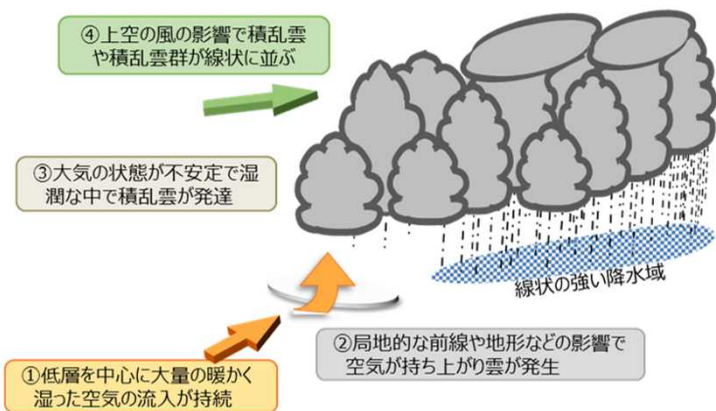
次々と発生する発達した雨雲（積乱雲）が列をなした、組織化した積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ50～300km程度、幅20～50km程度の強い降水をともなう雨域を線状降水帯といいます。

線状降水帯の例（平成26年8月の広島県の大雨）



気象庁の解析雨量から作成した、平成26年8月20日4時の前3時間積算降水量の分布

線状降水帯の代表的な発生メカニズムの模式図



「線状降水帯」というキーワードを使った気象情報

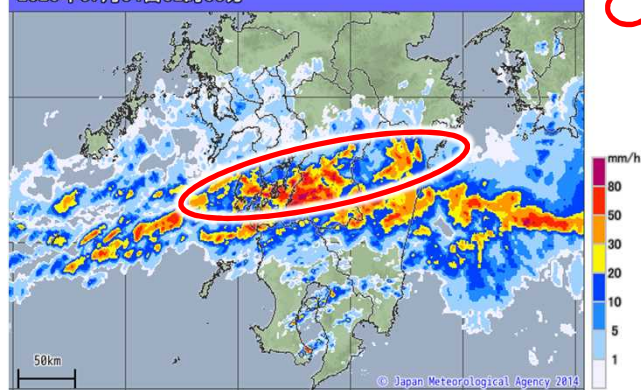
顕著な大雨に関する〇〇県（地方・全般）気象情報

〇〇では、線状降水帯による非常に激しい雨が同じ場所で降り続いています。命に危険が及ぶ土砂災害や洪水による災害発生の危険度が急激に高まっています。

- ・ 府県気象情報、地方気象情報、全般気象情報の同時発表です
- ・ 「〇〇では」は府県気象情報では一次細分区域、地方・全般気象情報では府県予報区です。長野県は「北部」「中部」「南部」。

「雨雲の動き」等に線状降水帯を楕円で表示

2020年07月04日02時00分

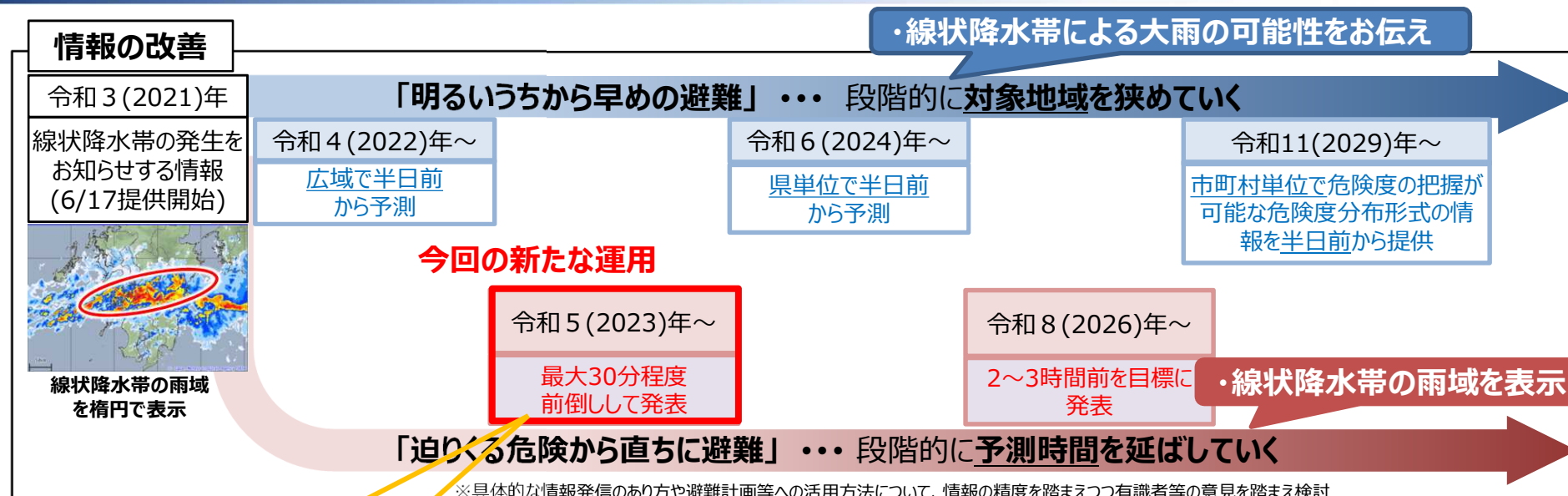


○ 大雨災害発生の危険度が急激に高まっている線状降水帯の雨域

※ 気象庁HP
「雨雲の動き」の例
「今後の雨」でも提供

「顕著な大雨に関する気象情報」を、より早く提供します

令和5年5月25日～



「顕著な大雨に関する気象情報」について、現在は発表基準を実況で満たしたときに発表しているところ、予測技術を活用し、線状降水帯による大雨の危機感を少しでも早く伝えることを目指す。

加えて、以下のデータも提供

○楕円データ（線状降水帯の雨域）

⇒データ配信（事業者等向け）

○「顕著な大雨に関する気象情報」の発表基準を満たした事例（線状降水帯の事例）

⇒気象庁HPの解説ページに自動掲載

「顕著な大雨に関する気象情報」の新たな運用のコンセプト

- 情報の位置づけは、現在の「顕著な大雨に関する気象情報」を踏襲する。
 - 「線状降水帯」というキーワードを用いて、非常に激しい雨が同じ場所で降り続き、大雨による災害発生の危険度が急激に高まっていることを解説する情報
 - 警戒レベル相当情報を補足する情報で、警戒レベル 4 相当以上の状況で発表
- 本情報は、これまで発表基準を実況で満たした場合に発表してきたが、今後は「危険度の高まり」を少しでも早く伝えることができるよう、予測技術を活用し、これまでより最大30分程度前倒して発表する。
- 本情報が発表された際は、これまでと同様に、大雨による災害発生の危険度が急激に高まっている状況となっていることを踏まえ、適切な防災対応をとることが重要である。

「顕著な大雨に関する気象情報」の新運用における発表基準

- 「顕著な大雨に関する気象情報」の発表基準を踏襲しつつ、「現在から30分先までに雨量や危険度の基準を満たす場合」に発表する運用に変更し、これまでより最大30分程度前倒して発表する。

現行の顕著な大雨に関する気象情報の発表基準

- ① 解析雨量（5kmメッシュ）において前3時間積算降水量が100mm以上の分布域の面積が500km²以上
- ② ①の形状が線状（長軸・短軸比2.5以上）
- ③ ①の領域内の前3時間積算降水量最大値が150mm以上
- ④ ①の領域内の土砂キキクルにおいて土砂災害警戒情報の基準を実況で超過（かつ大雨特別警報の土壌雨量指数基準値への到達割合8割以上）又は洪水キキクルにおいて警報基準を大きく超過した基準を実況で超過

※ 上記①～④すべての条件を同時刻に満たした場合に自動で発表

新しい顕著な大雨に関する気象情報の発表基準

現在から30分先までに、以下の基準を満たす場合に発表。

- ① 前3時間積算降水量（5kmメッシュ）が100mm以上の分布域の面積が500km²以上
- ② ①の形状が線状（長軸・短軸比2.5以上）
- ③ ①の領域内の前3時間積算降水量最大値が150mm以上
- ④ ①の領域内の土砂キキクルにおいて土砂災害警戒情報の基準を超過（かつ大雨特別警報の土壌雨量指数基準値への到達割合8割以上）又は洪水キキクルにおいて警報基準を大きく超過した基準を超過

※ 上記①～④すべての条件を同時刻に満たした場合に自動で発表

顕著な大雨に関する気象情報の新運用における検証結果

令和元年7月～令和4年10月の事例で評価
(一次細分区域単位の検証)

- 雨量予測等を用いて「顕著な大雨に関する気象情報」を発表した場合の、大雨になる割合

171事例

「顕著な大雨に関する気象情報」の発表基準の1つである

- ・ 前3時間積算降水量最大値が150mm以上となる事例…… 143事例 (84%)
- ・ 前3時間積算降水量最大値が130mm以上となる事例…… 167事例 (98%)

実況で発表している現在の情報と同様、発表されたときには、危険な状況となる可能性が非常に高い。

「顕著な大雨に関する気象情報」の発表例

- 線状降水帯に伴う大雨による災害発生の危険度が急激に高まっている状況を端的にお知らせするため、新たな運用においてもこれまでと同じ内容で発表する。

【情報の発表例】

顕著な大雨に関する〇〇県気象情報 第1号

令和5年〇月〇日〇〇時〇〇分 〇〇気象台発表

(見出し)

これまでの情報文と同じ

〇〇地方、〇〇地方では、線状降水帯による非常に激しい雨が同じ場所で降り続いています。命に危険が及ぶ土砂災害や洪水による災害発生の危険度が急激に高まっています。

(本文)

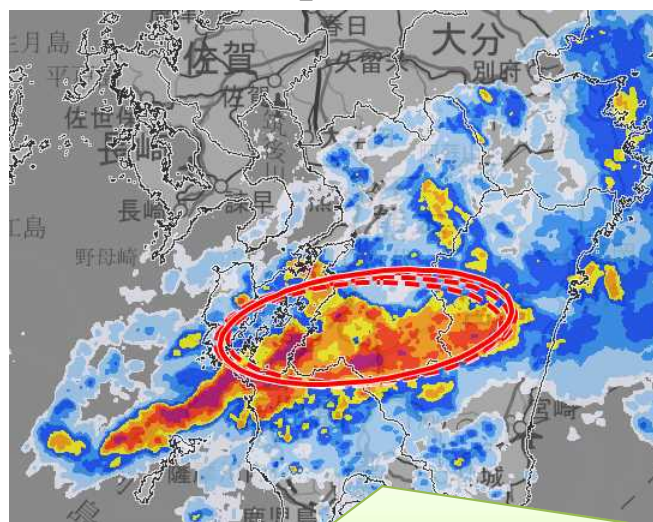
なし

顕著な大雨に関する気象情報を補足する図情報（気象庁HP）

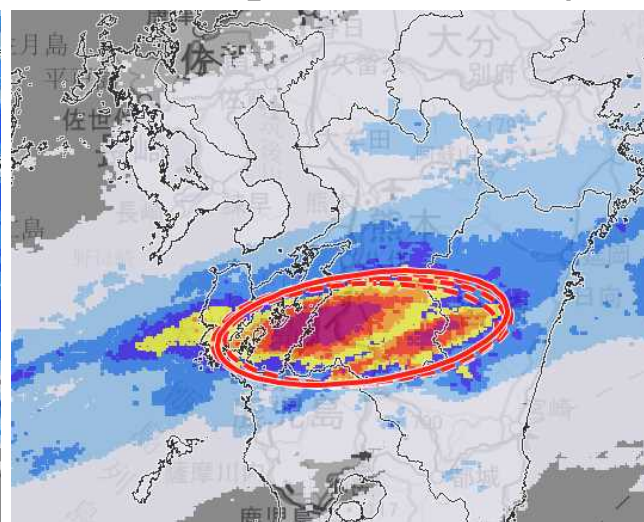
- 「顕著な大雨に関する気象情報」の発表基準を満たした地域を地図上で大まかに把握できるように、気象庁ホームページの「雨雲の動き」、「今後の雨」の地図上に赤楕円で表示する。
- 楕円はあくまで線状降水帯の雨域を大まかに示したものであり、その外側の地域でも大雨による災害発生危険度の急激な高まっているおそれがあることに留意が必要。

【気象庁ホームページにおける表示例】

◆「雨雲の動き」



◆「今後の雨」（3時間降水量）



大雨災害発生危険度が急激に高まっている線状降水帯の雨域（現在時刻の解析）

大雨災害発生危険度が急激に高まっている線状降水帯の雨域（10～30分先の解析）

ある時刻（現在時刻）に解析された線状降水帯の雨域を実線の楕円で、現在時刻から10～30分先に解析された線状降水帯の雨域を破線の楕円で表示。

※ 楕円が表示されなくなった場合でも、すぐに安全な状況になるというものではないため、引き続き、地元自治体の避難情報や気象台が発表する防災気象情報等に留意が必要。



「あなたの街の気象情報」の見方



あなたの街の気象情報の見方

気象庁ホームページをカスタマイズする

- ① ブラウザで気象庁ホームページにアクセスします。

<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>



- ② 「防災情報」を選択します。



- ③ 都道府県を選ぶ画面が現れますので、都道府県を選択します。都道府県を選択したら、市町村を選択します。

★「GPSから取得する」を押すと、現在地の市町村を表示・選択できます。



長野地方気象台作成


〒380-0801 長野市箱清水1丁目8-18



☎：026-232-3773（地域防災係まで） 11



あなたの街の気象情報の見方

気象庁ホームページをカスタマイズする

- ④ 表示したい情報を選択・追加したい場合、画面右上の  ボタンをクリックし、「表示をカスタマイズする」をクリックします。

- ⑤ 右下に現れた  ボタンをクリックすると、表示可能な情報の一覧が表示されます。必要な情報を選択し、 ボタンを再び押すと、一覧が消え、選んだコンテンツが表示されます。カスタマイズ表示したページをブラウザの「お気に入り（ブックマーク）」に登録すれば、次回以降設定せずに呼び出すことができます。

※先に選んだものが下に表示されます。コンテンツの表示順を変えたい場合、コンテンツの選択を一度全て解除し、下から上の順番で表示するものを選択してください。



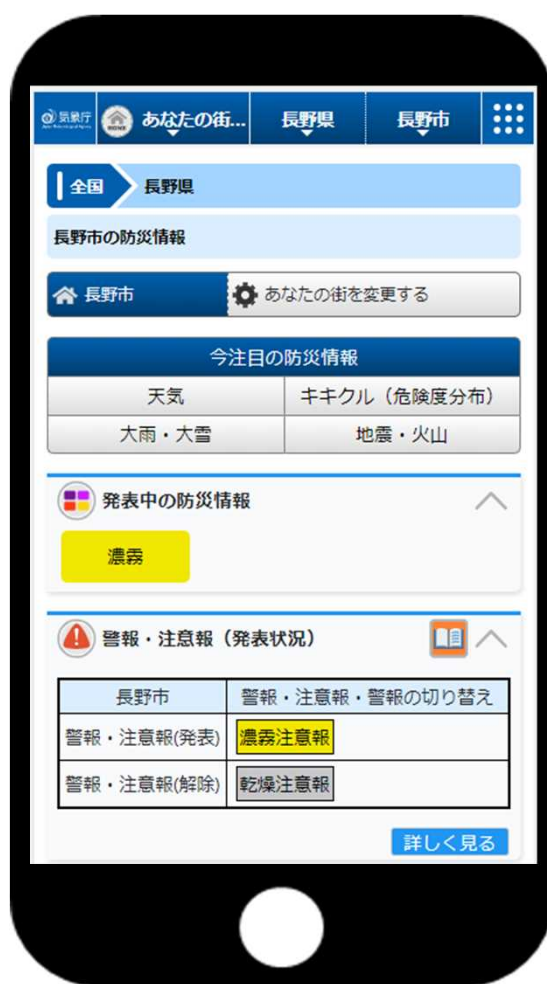


あなたの街の気象情報の見方

気象庁ホームページをカスタマイズする

- ⑥ ③で選んだ市町村に発表されている⑤で選んだ防災気象情報（警報・注意報、台風情報、雨雲の様子や週間天気予報など）が表示されます。

横にスワイプして1週間先まで確認できます





あなたの街の気象情報の見方

気象庁ホームページをカスタマイズする

コンテンツ一覧

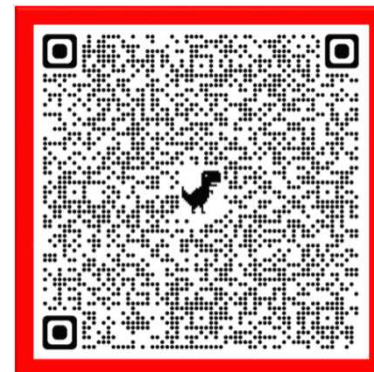
Q コンテンツ検索・絞り込み

- 発表中の防災情報 発表中の警報や注意報を確認
- 気象情報 発表中の気象情報を確認
- 警報・注意報（発表状況）
- 警報・注意報（今後の推移） 大雨などが続く時間を確認
- 警報・注意報（地図）
- 大雨危険度
- 天気予報（一覧表） 1週間先までの天気を確認
- 気象衛星ひまわり
- 早期注意情報 5日先までの警報の出る可能性を確認
- アメダス（地図） 気温や風、雨、雪の実況を確認
- アメダス（一覧表）
- 降り始めからの総雨量
- 指定河川洪水予報 発表中の指定河川洪水予報を確認

- 台風経路図 台風の進路の予想などを確認
- 気象台からのコメント 最新の雨や雪の量の目先24時間の予想などを確認
- 津波
- 地震情報（一覧表）
- 地震解説資料
- 火山解説資料
- 天気図
- 雨雲の動き 発達した雨雲の動きなどを確認
- 今後の雪 今後の雪の状況をなどを確認
- 浸水キキクル（危険度分布） 浸水害が発生するおそれのある場所を確認
- 土砂キキクル（危険度分布） 土砂災害が発生するおそれのある場所を確認
- 洪水キキクル（危険度分布） 洪水が発生するおそれのある場所を確認
- 噴火警報・予報
- 南海トラフ地震

おすすめ設定

春～秋用（赤囲み要素）



冬用（青囲み要素）



「市町村選択」のプルダウンで好きな市町村を選んでください。

スマートフォンのお気に入りの登録し、毎日数回チェックしましょう！

「キキクル（危険度分布）」の通知サービスについて

- 土砂災害や洪水等からの自主的な避難の判断に役立てていただくために、危険度が高まったときにメールやスマホアプリでお知らせするプッシュ型の通知サービス※1を実施しております。
- この通知は市町村からの避難指示等よりも先に届く場合があります。このため、通知を受信したときには、市町村からの避難指示等を確認するとともに、避難指示等が発令されていなくても、市町村内のどこで危険度が高まっているかを「キキクル（危険度分布）」の地図や河川の水位情報等で確認することで、自主的な避難の判断※2・3に活用いただけます。



※1 住民の主体的な避難の判断を支援する取組の一環として、気象庁の協力のもとで、以下のリンク先の5つの事業者が実施するものです。

(http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/bosai/ame_push.html)。

※2 離れた場所に暮らしている家族に避難を呼びかけることにも活用いただくことができます。

※3 避難にあたっては、あらかじめ指定された避難場所へ向かうことにこだわらず、川や崖から少しでも離れた、近くの頑丈な建物の上層階に避難するなど、自らの判断でその時点で最善の安全確保行動をとることが重要です。

協力事業者紹介


オールシーソリューション株式会社
「おしくるコール」から新たにリニューアルした統合防災アプリ「おしくる防災（シェアック）」で通知をお知らせします！
2019年9月25日リリース！


GEHRN
特設避難場所指定アプリで通知をお知らせします！
2019年9月10日リリース！


SHIMADZU
Excellence in Science
お天気MAPPAアプリで通知をお知らせします！
2019年8月11日リリース！


日本気象株式会社
Earth Communication Provider
お天気ナビゲーターWEB版で、メール通知をお知らせします！
2019年7月10日リリース！


YAHOO! JAPAN
Yahoo! MAPPAアプリで通知をお知らせします！
2019年9月10日リリース！